読書推進運動

No.698

★読書推進運動協議会 全体事業委員会（2頁）
★「こどもの読書週間」「読書週間」標語決定（8頁）

定価60円　会員の購読料は会費の中に含まれる

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL　03(5244)5270
FAX　03(5244)5271
発行人　佐々木　泰
編集人　片岡　伸子

年頭所感

変化の時代だからこそ読書が持つ力のアピールを

公益社団法人 読書推進運動協議会 会長
株式会社 講談社 代表取締役社長
野間省伸（のまよしのぶ）

明けましておめでとうございます。平素より読書推進運動協議会の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申しあげます。

昨年2025年の読書推進運動協議会の活動をふり返りますと、秋の「読書週間」期間中に贈呈式・祝賀会を行う「野間読書推進賞」が第55回を迎えました。地域や職域などにおいて、読書の普及に長年尽力し、読書推進活動に貢献してこられたかたがたを顕彰してまいりましたが、1971年の賞の創設以来、受賞された団体・個人はこれまで251を数えます。

そして第55回の受賞者は、団体・個人ともに約半世紀の長きにわたり、ハンディキャップを持つ子どもたちに対し、創意工夫を重ね、粘り強く活動されてきたかたがたでした。贈呈式当日、受賞者からその活動についてお話を聞くにつけ、ハンディキャップのある子どもたちに、さらにはすべてのお子さんたちに、読書の喜びを手渡したいという情熱がひしひしと伝わってまいりました。草の根の読書推進活動の大切さ、バリアフリー読書の意義についても、あらためて思いを強くいたしました。私どもは今後もこの賞を通じて、本と読者の出会いを助け、読書の楽しさを伝える活動を応援してまいります。

本年は「読書週間」が第80回を迎えます。終戦まもない1947年、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと「読書週間」はスタートしました。回を重ねるうち、日本ではこの季節を「読書の秋」として親しむようになりました。

現在、読書をとりまく環境は大きく変化しています。不読率の高止まり、無書店自治体の急増、公共図書館、学校図書館における司書の雇用形態や待遇の問題など、取り組むべき課題は山積しています。80回目という節目となる今年の「読書週間」では思いもあらたに、全国の読書推進活動の現場のかたがたと手を携えて、本を読むことの楽しさ、大切さを伝えていこうと考えております。関連行事もいっそう充実させていきましょう。

さて、2025年は生成AIについて大きな動きがあった年でもありました。急激に進化する生成AIと、著作権の保護のルールとをどのように両立させていくのか、議論が続いています。いずれにしても出版の世界も生成AIと無縁ではいられない時代がすでに到来しています。

社会やテクノロジーがどのように変わっても、読書が持つ力は不変であると、私は考えています。人は本を読むことで、主体的に自分の頭で考えることができるようになります。そして想像力、共感力、交渉力、表現力などを磨き、その人の人格を豊かに形成していきます。どのような社会になっても、しかるべき判断力を養ってくれ、ひいては「生きる力」をもたらすこととなるでしょう。

読書推進運動協議会は、長い歴史で培ったネットワークを駆使してこれからも活動を展開してまいります。みなさまからの倍旧のご理解とご助力をお願い申しあげます。

■公益社団法人 読書推進運動協議会 全体事業委員会

2026年度事業に向け、今年度事業を総括

公益社団法人　読書推進運動協議会の事業である、2026年度春の「第68回 こどもの読書週間」および秋の「第80回 読書週間」の標語選定事業委員会が2025年12月2日(火)、19名の委員が出席により開催された。事前に電子メールによる投票をお願いし、その結果をもとに、さらに投票と議論を行った。あわせて1200点を超える応募のなかから、それぞれ入選作が決定した（詳しくは8ページを参照）。

続いて2025年度 全体事業委員会を開催、事務局から以下の2025年度 事業報告があった。

4月23日～5月12日に行われた「第67回 こどもの読書週間」の標語は「あいことばは　ヒ・ラ・ケ・ホ・ン」。ポスターは、全国で開催された絵本美術展「童堂賛歌」が話題を呼んだザ・キャビンカンパニーが今年も描き下ろしで制作、4万7000部を配布。行事主催者数は1928だった。

10月27日～11月9日の「第79回 読書週間」の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」。ポスター5万1500部を配布し、37道府県読書推進運動協議会に行事補助金、各2万円を贈呈。「全国優良読書グループ表彰」は35団体に賞状・副賞を贈呈した。

7月の「敬老の日読書のすすめ」は13万5000部、12月の「若い人に贈る読書のすすめ」は18万6000部、それぞれリーフレットを制作、11月7日に贈定式を行った「第55回 野間読書推進賞」についても報告し、最後に翌年度の事業とそのスケジュールを確認、閉会した。

標語選定事業委員会の様子

■各地で「絵本ワールド」開催

北海道音更町、千葉県東金市で同日開催！

「絵本ワールドinおとふけ2025」が、2025年11月8日(土)、9日(日)の両日、北海道河東郡音更町の音更町生涯学習センターにおいて開催された。同町は十勝の中核都市帯広市に隣接する、広大な大地と自然に恵まれた町である。北海道においてはひさびさの絵本ワールド開催、音更では初開催で、地元の書店を中心に実行委員会が組織された。

絵本ワールドの恒例である絵本の販売のほか、初開催を飾るべく、多くのコンテンツが企画、実行された。絵本作家がゲストとして登場。真珠まりこさんは「もったいないばあさんのおはなし会」を90分にわたって行った。またワークショップとしては、小寺卓矢さんの「ミニミニ写真絵本づくり」、すずきもも さんの「美味しいじゃばら絵本つくり」、あべ弘士さんの「みんなでモザイク壁画づくり」が開催された。

音更町では、あべ弘士さんと子どもたちが協力して壁画作り！

イベントとして、「ゾロリと撮影会」「しずくちゃん しずくの森のなかまをさがそう！」や、缶バッチづくりやぬり絵のコーナーなどもあり、家族連れでにぎわった。展示された多数の絵本のなかからお気に入りを探したり、作家のサイン会に並んだりと笑顔あふれる晩秋の十勝の2日間となった。

同じく11月8日(土)、9日(日)には、千葉県東金市の城西国際大学千葉東金キャンパスを会場として、「メディア学部生と福祉総合学部生による老若男女楽しめるイベント！」と題して「絵本ワールドin とうがね2025」が開催された。10月に紀尾井町キャンパスで行われた前半とあわせて、「絵本ワールドin京葉」を構成しており、近年継続しているイベントだ。こちらでも新刊を中心とした絵本・児童書を主催の学生たちが選び、大学特別価格での販売を行なった。

とうがねでもコンテンツは豊富で、スペシャルワークショップとして行われた、しかけ絵本作家、やまはたマリーさんの「『いないいないばあ！』をつくろう！」や、イケメンの絵本男子による紙芝居の読み聞かせ、福祉総合学部で保育を学ぶ学生による絵本のおはなし会などを楽しむ親子連れの姿が見られた。

東金会場ではワークショップも大盛況！

子どもの読書推進会議が後援する絵本ワールド事業だが、2025年度は、福島県郡山市、兵庫県姫路市、前述の東京都千代田区と開催を重ねている。

■有楽町ブック・ウォーク

有楽町駅前での本のイベント！「読書週間」ポスターも紹介

2025年11月9日(日)・10日(月)の2日間、有楽町駅東口広場と東京交通会館前の道路上を会場として、書籍をテーマとしたイベント「有楽町ブック・ウォーク」が開催された。「有楽町駅東口広場社会実験」実行委員会が主催、地元メディアでもある株式会社ニッポン放送が企画運営を担当、まち全体で書籍文化を体感できる空間を演出した。

歩いて回遊できるスペースで、出版社や書店による展示や企画ブースがならび、ミニステージでは、「直木賞作家 万城目学のブックトーク」、書籍・マンガ好きで知られるニッポン放送アナウンサーの「吉田尚記 マンガトークイベント」などが展開された。

読書推進運動協議会は「有楽町ブック・ウォーク」において「読書週間ポスターギャラリー」を出展。有楽町イトシア前のテントで、第79回に加えて、第1回の1947年以来のポスターのなかから選りすぐりの14点を展示。本年の第80回にむけて訴求を高めることができた。

ブースでは「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットも配布

■NPOブックスタート 講演会

多様性、インクルージョンを考える講演会

NPOブックスタートは、2026年2月12日(木)、「子ども・社会を考えるシリーズ講演会『ともに生きる世界を描く〜児童書がひらくインクルーシブな未来〜』」を、きゅりあん 小ホール（東京都品川区）で開催する。プログラムは次のとおり。

・講演「『ここに自分がいる』と思える物語を」講師＝アレックス・ストリックさん

・ストリックさんとの対談

①「子どもと共に創る本」対談者＝攪上久子さん

②「『支援する／される』のその先へ」対談者＝伊藤亜紗さん

イギリスの児童書作家、ストリックさんは、児童書における多様性とインクルージョンの推進に取り組んでいる。攪上さんはバリアフリー絵本の研究者で、同分野の普及や、絵本制作指導に取り組んでいる。東京科学大学教授の伊藤さんは、障がいのある人との関わりから、身体の感覚の多様さ、コミュニケーションのあり方を探求している。

講演会は日本語字幕付き、対談は逐次通訳で行われる。参加費は無料だが、事前の申し込み（締め切り＝2月3日(火)、先着順）が必要。講演会詳細および参加申し込みは、NPOブックスタートサイト（https://www.booksstart.or.jp/）まで。

申し込み用
QR コード

■伊藤忠記念財団 子ども文庫研究交流会

文庫を軸に子どもに本を手渡す人たちの交流を図る

公益財団法人 伊藤忠記念財団は、2026年2月15日(日)に出版クラブホール（東京都千代田区）で、「子ども文庫研究交流会in東京」を開催する。

同財団は草の根の民間ボランティアなどの支援を目的とした「子ども文庫助成事業」の募集を毎年行っている。今回の会はこれまでの助成とは異なる支援として、公共機関の職員や関係者なども対象に、子どもの読書推進についての学びと交流の場を提供することを目的に企画されたもの。

プログラムは次のとおり。

・講演「子どもの本から広がる世界―翻訳と文庫活動を通して―」講師＝さくまゆみこさん（編集者・翻訳者、長野県 バオバブ文庫）

・事例発表「はとさん文庫は、わらべうた・おはなし・子どもの本の宝箱」講師＝服部雅子さん（東京都西東京市 はとさん文庫）、「思いがけず広がった読書の輪」講師＝大野良恵さん（東京都八王子市 グリーンヒル寺田こども文庫）

・交流会（講演会、事例発表を踏まえての意見交換も可能）

対象は、読書ボランティア、図書館員、学校司書、教職員、保育者、子どもの読書に興味や関心のある人（高校生以上）としている。

参加費は無料だが、事前の申し込み（締め切り2月5日(木)）が必要。会場参加とZOOMでの参加より選べる（配信は交流会はなし）。プログラム詳細および参加申し込みは伊藤忠記念財団サイト（https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/library/kouryuukai/）まで。

会場参加申し込み
QR コード

Zoom 参加申し込み
QR コード

■「世界KAMISHIBAIの日」

紙芝居で世界をつなげる！ 今回も多くの国・地域から参加

2025年12月7日(日)、東京都文京区の童心社KAMISHIBAI HALLにおいて、「第8回 世界KAMISHIBAIの日 in Tokyo（主催＝紙芝居文化の会）が開催された。

このイベントは、12月7日「世界KAMISHIBAIの日」を記念して、毎年開催されており、会場と世界中の参加者をオンラインでつないで行われる。今年も、会場には約40人、オンラインでは日本各地、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オランダ、韓国、ドイツ、ベラルーシ、マレーシアなどから約70名が参加した。

『二度と』をヒンドゥー語で演じる Unita Sachidanand さん

会場での実演は、アラビア語を交えてのまついのりこさんの『ごきげんのわるいコックさん』でスタート。その後、ニューヨークのお話『ねこのおかあさん』、イソップ寓話『うさぎとかめ』などが上演された。

世界各地の演者による「世界からこんにちは！」では、会場で松井エイコさんの『二度と』がヒンドゥー語で上演された。また、録画とオンラインで、とよたかずひこさんの『でんしゃがくるよ』が英語で、ドイツの紙芝居『さあ、みんな、こっちに来て』がドイツ語と英語でそれぞれ上演された。

その後、会場では、紙芝居文化の会推薦の紙芝居や、山本祐司さんの『こんにちはがいっぱい！』が多言語と手話で、長野ヒデ子さんの『おすわりやす いすどっせ』が中国語も交えて上演された。

会場には海外の紙芝居も多数展示。また、オンライン参加者よりひとことをもらうなど、世界とのつながりを深めた会となった。

■矢祭もったいない図書館 手づくり絵本コンクール

今年も全国より多数の応募！ 受賞者たちの活躍にも注目

福島県矢祭町の矢祭もったいない図書館が主催する「第17回 矢祭もったいない図書館 手づくり絵本コンクール」が2025年10月21日(火)に開催され、今年の入賞作品14点が決定、発表された。

このコンクールでは、「自然・友情・心の大切さと、夢と希望がいっぱいつまった手づくり絵本」をテーマに、全国から作品を募集している。今年の応募作品数は、一般の部（高校生以上）が50点、家族の部（中学生以下の幼児・児童・生徒が家族と一緒に制作したもの）が106点だった。

最終選考会では、柳田邦男さん（ノンフィクション作家）、あべ弘士さん（絵本作家）、佐川正一郎さん（矢祭町町長）の3人が審査員を務め、各部門の最優秀賞ほか受賞作品が決定した。

一般の部の最優秀賞は『ターくんのおいもほり』黒川良子さん（三重県津市）、家族の部最優秀賞は『お庭はレストラン』松井絵里奈さん・瑠璃さん（兵庫県尼崎市）が受賞した。この2作品は印刷製本され、副賞として作者へ贈呈される。また、最優秀賞受賞者は1年間、「手づくり絵本大使」に任命される。そのほか、すべての入賞作品は電子書籍として制作され、3年間、矢祭もったいない図書館のホームページで読むことができる。

柳田邦男さん、あべ弘士さんと、全国から集まった受賞者のみなさん

12月13日(土)には、表彰式と懇親会が開かれた。柳田さん、あべさんも参加し、全国から集まった受賞者を祝福。会場には全受賞作が展示され、たがいに作品を手に取りながら、受賞者たちが交流を深めた。

コンクールも17回を迎え、過去の受賞者の活躍も増えてきた。第1回の最優秀賞、かとーゆーこさんは絵本作家として活躍しており、矢祭町ふるさと応援大使として、町の読書推進パンフレットや手づくり絵本コンクールポスターなどにイラストの提供もしている。また、第13回の最優秀賞受賞の掃部千鶴さんは、手づくり絵本大使として郷土の偉人を紹介する絵本『吉岡艮太夫の生涯～まっすぐな武士の道～』を、矢祭こども司書（読書推進リーダー）ふたりと協力して制作し、貴重な郷土資料として活用されている。

「吉岡艮太夫の生涯」は紙芝居も用意されている

●矢祭町もったいない図書館ホームページ
https://mottainai-toshokan.com/

■第70回 学校読書調査

不読率の上昇、読書量の低下の解決に向けて 子どもの好奇心に応える読書環境の整備を！

今年度設問の特徴

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、毎年実施している「学校読書調査」の第70回となる2025年度調査のまとめを発表しました。

この調査は、毎年、6月第1週・2週に全国の小学生（4～6年生）・中学生・高校生を対象に、児童生徒の読書状況に関する調査として、行われています。

今回の調査項目は、①5月1か月間に読んだ本の冊数、②5月1か月間に読んだ雑誌の冊数、③わからないことをなにで調べるか（選択回答）、④スマホやタブレットで調べた内容が正しいかどうか確かめているか（選択回答）、⑤読み聞かせをしてもらった経験、家族・教師・友人と読書体験の共有などの有無（選択回答）、⑥今の学年になってから読んだ本のタイトル（3つまで）。本についての項目は紙・電子を問わず（ただし、電子で読んだ冊数を明示）、教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞいて回答してもらっています。

今回は、調べたいことがあるとき、子どもたちがどのような手段を取っているか、ネット上で調べた情報の真偽を確認しているか、といった情報収集の手段についてや、読み聞かせや読書感想の交換など読書体験の共有をしているかを聞いているのが、特徴です。

全校種で「不読率」が上昇

毎回注目を集める、項目①「5月1か月間に読んだ本の冊数」で「1冊も読まなかった」と答えた子どもの割合、いわゆる「不読率」前回と比べ、小学生が8・5％→9・6％、中学生は23・4％→24・2％、高校生は48・3％→55・7％と、今回はすべての校種で上昇しています。不読率は年ごとに上下するものの、2000年以降はおおむね低下傾向にありましたが、この3年は増加傾向を見せています。図「過去31年分の不読者（0冊回答者）の推移」をご覧ください。

また、「5月1か月館に読んだ本の冊数」の平均冊数も、全校種で減少しています。前回と比べると、小学生13・8冊→12・1冊、中学生4・1冊→3・9冊、高校生1・7冊→1・4冊です。1冊ごとにページ数や内容が異なるので、この数字だけでは一概に読書量が減っているとは言えませんが、項目⑥「今の学年になってから読んだ本のタイトル」の回答に、漫画やアニメのノベライズ、短い（2～3ページまたはそれ以下）でストーリーや項目が完結する本がこれまでよりも多く見られるなど、「じっくり1冊を読んでいるから、冊数が減っている」とも思えず、少々心配になります。

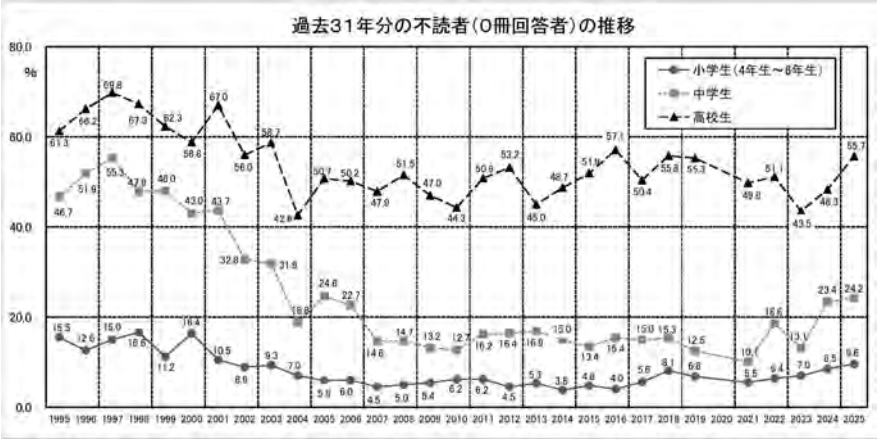
調べる力、見極める力を

項目③④は、情報を得るために図書を活用しているかどうかを尋ねるものです。小学生の83・9％、中学生97・0％、高校生の98・4％が「わからないことはスマホ・タブレットで調べる」と答えています。ただし、「家族や友だち、先生に聞く」も全校種で50％以上の回答がありました。身近な、信頼できる人からの情報を、子どもたちは必要としています。

「スマホ・タブレットで調べる」と答えた児童生徒にのみを対象とした項目④「その情報が正しいか確かめているか」には、すべての校種で70％以上が「確かめている」と回答しました。ただし、中学生の約50％、高校生の約60％が「ほかのサイトで調べている」と回答しており、「本を使って確かめている」はわずかに2～3％にすぎません。「ほかのサイト」の情報源が信頼できるものか、判断するのはむずしいことです。子どもたちの身近な場所に、好奇心や知識欲に応えるだけの図書資料があり、適切な図書へ橋渡しをする大人がいることが、必要ではないでしょうか。

すべての調査項目の結果、詳細な分析が掲載されている、『学校図書館』2025年11月号は、書店での注文、または全国SLAへの直接注文で購入可能です。（編集部）

●全国SLAホームページ
https://www.j-sla.or.jp/



●図の出典：学校読書調査（全国学校図書館協議会）

優良読書グループの歩み（1）

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。（順不同）

むつ市交通安全みんなの会連合会　イエローチャーム

代表者　山道　千代

青森県むつ市

〈推薦〉
青森県読書推進運動協議会

私たちの活動は、2015年5月、メンバー2名で、むつ市交通安全母の会連合会（現・みんなの会）の子ども向け啓発活動の一環として、むつ市立図書館で交通安全紙芝居を読んだのが始まりです。以来、交通安全啓発の紙芝居や児童生徒標語作品などを組み入れた読み聞かせを行っています。

定番の黒っぽい服装に会のシンボルの黄色いスカーフとライトに光る反射材をつけるスタイルから「黄色いお守り＝イエローチャーム」と名乗るようになりました。

メンバーの転勤による入れ替わりを経て、現在4名で活動中。今年度は図書館をはじめ、保育園・こども園・子育て支援センター・小学校・子ども向けイベントなどで、59回の実演を予定しています。

交通社会では相手を思いやり、ルールを守ることが命を守ることにつながります。そのため、読み聞かせプログラムには交通安全に関わるものを1点入れ、ほかに遊び本や季節を感じられるもの、やさしい気持ちになるような絵本を選んで、子どもたちや寄りそう大人の方々に楽しい時間を過ごしていただけるよう心がけています。

園での読み聞かせでは「おうちの人にもおしえてあげてね」とメッセージをそえて、その日読んだ絵本や「交通安全のおやくそく」を手紙にして、クラスへプレゼントしています。読み聞かせを通じて、ご家庭でも楽しい時間を持たれることを願っています。

私たち自身は絵本と子どもに関わることが大好きな集まりです。メンバーそれぞれに背景があり、おたがい時間をやりくりして活動しています。魅力ある絵本や子どもたちの反応、参加した研修会の内容などなど、うれしいこともたいへんなこともLINEや活動前後の駐車場の車中でのおしゃべりで共有しています。

ありがたいことに、私たちの活動をご理解ご支援くださる図書館はじめ園・団体のみなさまのおかげで、読み聞かせの場をいただいています。そこで出会う子どもたちと大人の方々の笑顔は私たちの活力の源になっています。

今後も読み聞かせを通じて、やさしさや思いやり、ルールが命を守ることにつながることを伝え、子どもたちとその子どもたちを育む大人の方々の笑顔が増えることを願って、コツコツと活動を続けてまいりたいと思います。

交通安全や、やさしい気持ちをおはなしで子どもたちに伝えて

富士市学校読み聞かせネットワーク

代表者　狩野窪高江

静岡県富士市

〈推薦〉
静岡県読書推進運動協議会

●読書グループの設立歴史

富士市の静岡県子ども読書アドバイザーの1期2期が、市内の小中学校での読み聞かせ活動をより質の高いものにするため、連携・情報交換の場として、各ボランティア団体の賛同を得て、富士市立図書館・富士市教育委員会の支援で2010年2月に発足。

●組織と運営

顧問4名・代表1名・世話人11名（静岡県子ども読書アドバイザー）で運営している。会員は、富士市内小中学校38校、ボランティア29団体で、富士市立中央図書館を事務局としている

●読書活動の実際

定例会は年3回（5月、10月、翌年2月）で、うち1回は総会。定例会では勉強会を実施、読み聞かせの基本・本の紹介・選書リスト配布などグループワークを通じて、意見・情報交換を行い、各校の交流の場となっている。

市内小中学校のボランティアがともに実践・情報を共有

読み聞かせ勉強会を年9回開催。2023年6月より役員を講師とし「読み聞かせの基本」を学ぶ講座としている。対象は会員や読み聞かせに興味を持つ方。

●読書グループを作り育てるための努力、苦心、喜びなど

定例会では各団体へのアンケートを参考に役員が勉強会の内容を起案。役員による絵本の読み聞かせ、おはなしの語りを聞く、実際に本を持つ・発声をするなど能動的な勉強などの機会を増やしている。読み聞かせ勉強会では、『絵本のせかい こどものせかい』（松岡享子）をテキストに読み聞かせの基本を伝えている。どちらも年々参加者が増えている。

●読書グループを継続するコツ。行っているレクリエーションなど

起案したテーマが伝わるよう、役員が会合を重ね会員へ提案を続けている。また外部の講師による講演会を開催している。

●これからの希望、抱負など

今後も参加するみなさんと研鑽し、各学校で子どもたちにおはなしを届けていきたい。

おはなしの玉手箱

代表者　谷中きよ子

和歌山県新宮市

〈推薦〉
和歌山県公共図書館協会

おはなしの玉手箱は、長年読み聞かせや文庫活動をしていた方の、「絵本の読み聞かせを通して、心が通じあうひとときを大切にしながら、すばらしい本と出会い語りあえる場所をつくりたい」という呼びかけから、新宮市教育委員会が事務局となり、２００２年に発足しました。

現在は教育委員会から独立し、ボランティアサークルとして活動しています。人とのつながりを大切に、入れ替わりながらも10人前後の会員数を保っています。

活動内容は、定期的に行う、保育園・放課後児童クラブへの読み聞かせや、大人向けおはなし会です。また、地元の民話をもとにペープサートを制作するなど、会員の得意なことを活かしながら子どもたちに地域の文化を伝えられるような取組も行ってきました。

活動を続けるうえで励みになるのは、子どもたちとのふれあいです。小さかった子が大きくなるにつれ、しっかりと読み聞かせに耳を傾けることができるようになり、読み聞かせや本を楽しんでいるのを感じるのは、なによりの喜びです。

少人数グループであることを活かしてリーダーは作らず、「すべてのことを全員で相談して決める」ことを方針にし、月1回の例会で、関心のある本の情報共有や、読み聞かせの役割分担などを行っています。このように、全員が当事者意識を持つということも、活動を長く続けられる一因になっているのではないかと思います。

子どもたちの成長が読み聞かせの喜び

子どもの人数が減ってきたことなどに寂しさを感じるときもありますが、これからも、新たな訪問先の提案や、新宮市子ども読書活動推進会議への会員の参加など、活動場所を広げる努力を続け、新旧問わずさまざまな分野の本との出会いを大切にし、子どもたちと一緒に楽しみながら本の楽しさを伝えていきたいです。

朗読サークル Ｎｅｗ杜の声

代表者　及川　花子

大分県中津市

〈推薦〉
大分県読書推進運動協議会

「Ｎｅｗ杜の声」は、２００８年4月に発足しました。当初、音声訳に参加していた仲間の集まりでしたが、「聞き手の心に残る読みをしたい」という思いから、本格的な朗読技術を学ぶため、サークルを結成しました。私たちは、若者がよく使っている短く詰めたことばではなく、日本語が持つ情緒ある美しさ、温かさ、懐かしさを次世代に伝えたいと強く願っています。

「大人のための朗読会」で中津出身・福沢諭吉関連の本を朗読

朗読技術の維持・向上のため、東京の講師の先生と月1回のオンライン授業を実施し、有意義で楽しい学びの時間を共有しています。

ボランティア活動は年間のべ36回と多いため、当番制を導入し、会員全員が公平に参加できるよう工夫しています。また、同じ場所で同じ本を読まないように気をつけていますので、図書館で多くの本をお借りできることは、とても助かっています。

支援学校、老人保健施設、こども食堂、障がい児放課後学童、幼稚園など、はば広い場所からのご依頼を受けていますが、うち3か所は毎月訪問しています。朗読を通して、障がいのある方も、健常者の方も、同じように喜びを共有できることは、本のすばらしい力だと感じています。

活動先で子どもたちが会員の顔を見つけ、手を振って声をかけてくれる瞬間は、なにには代えがたい喜びであり、最大の励みです。この瞬間のために、私たちは技術を磨き、活動を続けています。

「継続は力なり」と申しますが、結成当時は歳を取ることを忘れていました。読むことが好きで、夢中で始めたボランティアですが、年齢を重ねるとともに、家庭の事情や本人の体調、車の運転が困難になるなど、さまざまな理由で会員の参加がむずかしくなってきている課題に直面しています。

今後の希望や情熱はあっても、このままでは継続がむずかしくなることが考えられるため、今後は会が未来へつながるよう、新たな仲間を募りながら、より多くの地域の方々に「Ｎｅｗ杜の声」を届けるよう、活動に力を注いで参ります。

標語決定！

2026 第68回
「こどもの読書週間」
ことばがきみのはねになる

2026 第80回
「読書週間」
静かだけど、冒険中。

2025年12月2日㈫、公益社団法人 読書推進運動協議会の「こどもの読書週間」および「読書週間」標語選定事業委員会（出席19名）が開催され、「2026 第68回 こどもの読書週間」と「2026 第80回 読書週間」の標語が決定しました。

第68回「こどもの読書週間」標語の応募総数は一般・会員各社あわせて610点（選考対象は327点）。第80回「読書週間」標語の応募総数は663点（選考対象は364点）でした。

選定委員会では「こどもの読書週間」標語、「読書週間」標語の順で協議。どちらも、事業委員による数回の投票（第3回投票まではメールで集計）で作品を絞り、推薦の弁などを加えて、最終的に各委員の一票投票によって、入選作品を決定しました。

ご応募されたみなさん、社内の応募作をとりまとめいただいた会員各社の担当者のみなさん、ありがとうございました。

【第68回 こどもの読書週間 標語】

■入選（図書カード1万円）1点

・**ことばがきみのはねになる**
　吉川　彩奏さん（講談社）

■次点（図書カード5千円）2点

・よんでふやそう
　こころのページ
　長堀　良祐さん（講談社）

・いっぱい読んで、夢いっぱい
　落合　正子さん（トーハン）

■佳作（図書カード2千円）20点

・いい本見〜つけた！
・気になる、手にとる、
　読んでみる
・ことばのたねが　こころにさいた
・ないた　わらった　ほんすごい
・キミの一冊、きっとみつかる
　ほか

【第80回 読書週間 標語】

■入選（図書カード1万円）1点

・**静かだけど、冒険中。**
　船倉　菜々子さん（小学館）

■次点（図書カード5千円）2点

・栞が教える、心の居場所
　長堀　良祐さん（講談社）
・私には、本がある。
　百足祐希乃さん（トーハン）

■佳作（図書カード2千円）22点

・あの日の栞で待ち合わせ
・世界を変える、ひとめくり
・言の葉舞う、読書の秋
・さあ、言葉の旅へでかけよう
・今日の予定、読書。
・ぱらりぱらり　春夏秋冬
　ほか

事務局報告（12月）

☆1日＝2026「こどもの読書週間」「読書週間」事業委員三次投票 締め切り
☆2日＝2026「こどもの読書週間」「読書週間」標語選定・全体事業委員会
・4日＝「第29回 調べる学習コンクール」個人審査会 参加（図書館振興財団）
・10日＝「2025 出版販売年末懇親会」出席（帝国ホテル）
☆8日＝機関紙『読書推進運動』697号 入稿
☆9日＝機関紙『読書推進運動』697号 責了
・12日＝「第58回 造本装禎コンクール」監査
・12日＝「2025 上野の森親子ブックフェスタ」事業報告を作成・郵送
☆15日＝機関紙『読書推進運動』697号 出来
・17日＝「第58回・第59回 造本装禎コンクール」実行委員会 出席
・17日＝講談社「2025 野間出版文化賞」ほか贈呈式 出席（帝国ホテル）
・19日＝「2026 上野の森親子ブックフェスタ」出展者説明会 開催
☆26日＝事務局仕事納め

読書推進運動協議会
X（旧 Twitter）

●編集部&事務局のひ・と・こ・と

●昨年末12月17日に講談社の野間出版文化賞の贈呈式があり、吉田修一さんと李相日さんが受賞された。いわずと知れた2025年のメガヒット『国宝』の原作・監督のコンビである。おふたりのはにかむような笑顔をみながら、小説の映画化について考えていた。李さんが受賞のコメントで「吉田さんと脚本について打ちあわせを重ねながら、この長大な大河ドラマのような原作から、どのように『取捨選択』をしようか、ずっと悩み考えていた」と話されていたのが印象的だった。

●好きな小説が映画になり、観てがっかりすることもあるし、先に映画を観て……、ということもある。両方できがいいのは、案外少ないのではないかと思う。吉田作品は映像化にむいているのか、同じ李監督の『悪人』と『怒り』もすばらしかった。個人的には、沖田修一監督の『横道世之介』がお気にいりだ。高良健吾演じる世之介が主人公のイメージにぴったりで、原作、映画とも「青春モノ」の秀作だと思っている。

●近年では、村上春樹原作、濱口竜介監督の『ドライブ・マイ・カー』が出色だった。こちらは「取捨選択」と逆に、短編小説に他の作品の要素も加えて大きくふくらませ、見事に新しい物語を構築している。

●最後に海外もので長く大好きなマリアージュを。フレデリック・フォーサイス×フレッド・ジンネマンの『ジャッカルの日』。ド・ゴール大統領を狙う殺し屋、エドワード・フォックスのクールなこと。（佐々木）